

舞子公園における夜景資源の特徴とその活用方策について

株式会社ヘッズ 福田裕子
 兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 嶽山洋志
 同上 美濃伸之

1. はじめに

兵庫県立舞子公園は、神戸市垂水区東舞子に位置する都市公園であり 1900 年に初の県立公園として開設されている。舞子地域は白砂青松の地として昔から詩歌にも詠まれ、景勝地として人々に親しまれてきた地である。また平成 10 年に架橋された世界最長の吊り橋「明石海峡大橋」は舞子の特徴的な景観となっており、年間約 150 万人の来園者が訪れている。さらに園内には明治、大正、昭和のそれぞれの時代に舞子の地に建てられた建物が修復され、公園施設として一般公開されている。このような舞子公園で筆者は管理運営推進協議会の委員として、園内施設の活性化や管理運営方針の協議で意見を求められており、風致公園である舞子公園の主たるテーマである「景観」の魅力を活かした利用促進企画を検討することとした。

企画内容を考案するべく事前調査として 2012 年 4 月 24 日に公園の屋外利用者の行動調査を実施した。結果、12 時から 14 時までの昼間利用者数と 18 時から 20 時までの夜間利用者数と比較すると、昼間利用者が 161 人である一方で夜間利用者が 146 人と、夜間利用者数は昼間利用者数の約 9 割に及ぶことが判明した。また同時に、公園利用者を対象に好きな夜景に関する予備ヒアリングを行った結果、明石海峡大橋のイルミネーションや対岸の淡路島の街のあかりなど、様々な夜の景観資源が楽しまれていることが分かった。「昼間の景観」に対しては根上がり松再生プロジェクトなどいくつかの景観の魅力向上への取り組みが既に実施されているが、「夜の景観」に対しての取り組みは園内施設のライトアップ以外はほとんど行われていない。そこで本研究では、舞子公園の新たな夜間利用を開発することを目的に、夜の景観資源を活かした利用促進の企画のあり方と、それを担える組織体制を具体化するため、以下の調査と社会実験として試行イベントを実施し、その可能性を検証した。

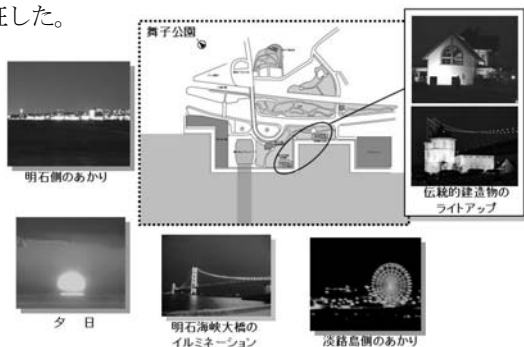


図-1 舞子公園および周辺の夜の景観資源

2. 夜間の利用内容と景観資源を把握する調査

舞子公園の夜間の利用内容と景観資源を把握するために、定点観測による屋外を利用する公園利用者の利用実態調査と公園利用者へのヒアリング調査の 2 つの調査を実施した。

(1) 定点観測による利用実態調査

(I) 調査方法

調査は 2012 年 4 月から 12 月まで毎月 1 回 9 時から 20 時まで 2 時間毎に公園内を巡り、屋外利用者の①利用内容、②年齢、③性別を公園マップの発生位置に書き込むこととした。分析では、特に夜の利用行動の特性を捉えるため、12 時から 14 時の昼間利用と 18 時から 20 時までの夜間利用を比較した。

(II) 調査結果

年間を通した 1 日の時間別平均屋外利用者数の結果は以下の通りである。昼間利用者数と夜間利用者数を比較すると、まず 1 日の平均利用者数が昼間で 133.0 人、夜間が 102.8 人で、夜間利用者数が昼間利用者数の約 8 割と、年間を通じて夜間の利用者数を見込めることが分かった。

また、利用内容別に昼間利用者数と夜間利用者数を比較した結果を見てみると、夜間利用者数が多い順に「散歩・ジョギング (昼間 34.0 人、夜間 39.0 人)」と「釣り (27.1 人、29.8 人)」、「たそがれ・お喋り (16.2 人、10.2 人)」、「デート (0.7 人、6.7 人)」、「犬の散歩 (2.4 人、7.3 人)」となった。「散歩・ジョギング」、「犬の散歩」が、昼間と比べてもさほど変わらない利用者数という結果から、夜間も日常的な利用が多いということがわかる。これは、舞子公園が住宅地に隣接していることや、JR と山陽電鉄の駅に近く、交通アクセスが良いことが要因であると考えられる。

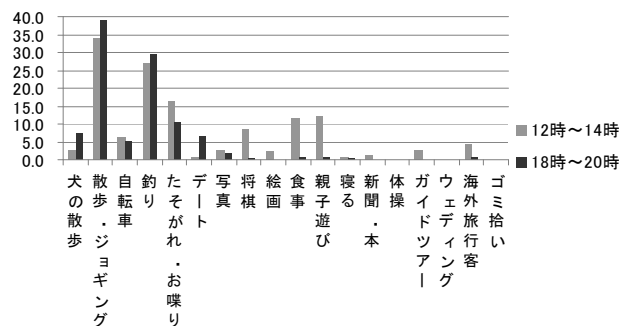


図-2 活動内容別 1 日の平均屋外利用者数 昼間と夜間の比較

(2) 公園利用者へのヒアリング調査

(I) 調査方法

舞子公園の夜景資源を発掘すべく2012年4月から12月まで毎月1回9時から20時まで公園内の一定のルートに従い出会った公園利用者に対してヒアリングを実施した。また8月4日から6日の夏祭りイベントで集中ヒアリングを実施した。内容は「舞子公園における好きな夜景について」と「夜の舞子公園で体験したいこと」の2つとし、合計274名の有効回答を得た。また上記のヒアリングを行うなかで「夜間利用に関する意見」を幾つか得ることができた。

(II) 調査結果

1) 舞子公園における好きな夜景について

公園利用者が好きと感じる夜景資源は「明石海峡大橋」が45件と最も多く、次いで「夕日(35)」「淡路島のあかり(24)」が多かった。この結果から公園利用者は舞子公園の大規模なあかりを好んでいることがわかる。しかし一方で数は少ないが「船(18)」「電気ウキ(7)」「犬の光る首輪(2)」「ホテル(2)」といった、人々の活動によって生み出される小さくかつ身近なあかりも好まれていることが分かった。

2) 夜の舞子公園で体験したいこと

また夜の舞子公園で体験したい取り組みとしては「カフェ」が31件と最も多く、次いで「野外コンサート(10)」「花火(10)」であった。この結果からスポーツのように動的な利用というよりは、滞留して楽しむ利用を求めている傾向があるということが分かった。また最も多かった意見が「カフェ」であったことから、日常的に滞留して楽しむ夜の利用へのニーズが高いと考えられる。

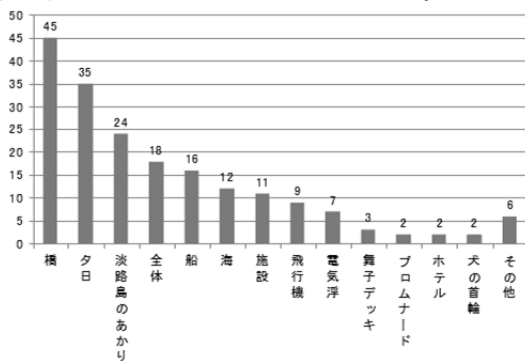


図-3 舞子公園における好きな夜景について

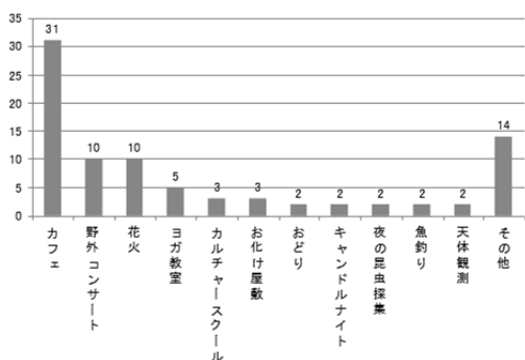


図-4 夜の舞子公園で体験したいこと

(III) 夜間利用に関する意見

上記のヒアリングを行うなかで、公園の夜間利用に関する意見も幾つか聞くことができた。昼間の利用者では「夜の公園には行かない。釣り人以外人が居ないから怖い」や「夜の公園は怖いイメージがあるから行かない」などといった、夜間の公園に関して悪いイメージを持つとともに、その影響から夜間利用をしないという意見があることが分かった。しかし一方で夜間利用者では、「釣り人がいるから夜間を利用するのも怖くない、人がいる方を歩く」や「21時頃に来て利用者が多いので怖くない」などといった意見があり、人の存在が他の利用者に安心感を与えていることがわかった。つまり、舞子公園の夜間は日常的に利用者が存在するため安心感のある雰囲気であるということと、その実態をまだ昼間の利用者を中心に十分知られていない現状であると言える。

3. 夜の景観を活かす取り組みについて

調査結果をもとに「夜の景観の魅力を向上させる」ことをテーマとして、様々な組織・公園利用者を引き込みながら、舞子公園の夜の景観資源の特徴である「人がつくり出す小さくかつ身近なあかり」を参加型で増やし、大規模なあかりと組み合わせることで、利用者と夜の景観を繋げるプログラムを実施した。

(1) 夜景に囲まれた野外カフェの開催

2012年8月4日から6日に、舞子公園の夏祭りイベントに合わせて「夜の舞子公園で体験したいこと」の1位であった「カフェ」を開催した。「好きな夜景」の結果から多かった「夕日」「淡路の街並み」「船」「海」を眺めることのできる場所を選定し、飲み物を提供するカウンターやイス・テーブルを設置し、時間帯によって照明の色を変え空間演出した。設備協力を舞子公園管理事務所に、空間を演出する照明協力を公園利用者でもある推進協議会委員に参加を呼び掛けた。参加者数は3日間で250人であった。

(2) 夜景を背景にした野外コンサートの開催

2012年10月21日に、舞子公園の秋の芸術祭に合わせて「夜の舞子公園で体験したいこと」の2位であった「コンサート」を開催した。場所は野外カフェと同じ開催場所で夜景を背景にしなが、近隣住民含む5組のアーティストが参加した。設備協力を舞子公園管理事務所に、照明・音



図-5 野外カフェの開催の様子



図-6 野外コンサートの開催の様子



図-7 光を身につけて夜景をつくり出すイベントの様子

響協力を公園利用者でもある推進協議会委員に、イベント運営を神戸大学、兵庫県立大学、神戸学院大学などの学生に参加を呼び掛けた。参加者数は約 150 人であった。

(3) 光る素材を身につけて夜景をつくり出すイベントの開催

2012 年 10 月 21 日に、舞子公園の秋の芸術祭に合わせて光る素材を身につけて夜景をつくり出すイベントを開催した。「夜間利用に関する意見」の中で人の存在が他の利用者に安心感を与えているという結果と「好きな夜景」として「釣り人の電気ウキ」や「犬の光る首輪」があるように、夜間利用者がそれぞれ光を身につけて活動することで人の息づく安心感のあるあかりが夜間の公園を魅力的にしていると考え、それを体感してもらうイベントを実施した。

光る素材を身につけてもらう対象として、夜間に多く利用されていた「散歩・ジョギング」「犬の散歩」「たそがれ・おしゃべり」「デート」といった、すでに多くの利用者が光を身につけている「釣り人」以外の 4 主体が挙げられた。内容は「デート」や「たそがれ・お喋り」をしている利用者を対象にランタンづくりワークショップを実施した。また「犬の散歩」をしている利用者を対象に光る犬の首輪を販売した。さらに「散歩・ジョギング」をしている利用者に対しては LED で光る靴ひもを配布し 60 人で一斉に公園内をウォーキングするアートプロジェクトを実施した。設備協力を舞子公園管理事務所に、照明・音響協力を公園利用者でもある推進協議会委員に、イベント運営を神戸大学、兵庫県立大学、神戸学院大学、舞子高校などの学生に参加を呼び掛けた。参加者数は光る靴ひも配布が 60 人、ランタンづくりワークショップが 9 人、光る犬の首輪の販売が 5 人であった。

4. 夜の利用促進を担える体制づくり

(1) ボランティア団体「舞子あかり倶楽部」の発足

舞子あかり倶楽部設置要綱	
(名称)	
第 1 条	この会は、舞子あかり倶楽部(以下、「本会」という)と称する。
(目的)	
第 2 条	明石海峡大橋のイルミネーションなどのダイナミックな夜景や、海面に浮かぶ電気ウキの灯りなどの市民が作り出す夜景など、垂水区には魅力的な夜景資源が豊富にある。そのような夜景資源を活かしたイベントや新たな夜景資源の開発などを通して、私たちは「夜が魅力的な公園づくり・まちづくり」を進めることを目的とする。
(事業)	
第 3 条	本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。 1. ナイトプロジェクトの企画運営 2. ナイトプロジェクトの広報 3. ナイトプロジェクトの記録製作 4. その他目的を達成するために必要と認められた事業に関すること
(構成)	
第 4 条	本会は会長および会員、オブザーバーをもって構成する。 2 会長は、倶楽部を代表し事業を統括する。会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名した者がその職務を代行する。 3 会長および会員は、別紙に掲げる職にある者をもって充てる。
(会議等)	
第 5 条	会議等は会長が召集し、その議長となる。 2 会長は、必要があると認められた時は、会議に有識者その他の関係者を出席させることができる。
(謝金・旅費)	
第 6 条	会議等の職務に従事したときに発生する旅費等の費用は基本無償とする。
(事務局)	
第 6 条	本会の事務を処理するため、倶楽部に事務局をおく。 2 事務局の所在は兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科とする。 3 庶務は事務局で行うものとする。
(経費)	
第 7 条	本会の経費は、助成金および負担金、各種企業等の団体および個人からの協賛金等をもって充てる。
(雑則)	
第 8 条	この会則に定めるものの他、本会の運営に関して必要な事項は、会長が定める。
附則	
	この会則は、平成 24 年 11 月 9 日から施行する

図-8 舞子あかり倶楽部設置要綱

夜の景観の魅力を上向きさせる取り組みにある程度の手応えを感じたため、今後の継続・発展性を考え、夜間の利用促進を担える体制づくりを行った。体制づくりの内容は、夜の景観の魅力づくりに取り組むボランティア団体「舞子あかり倶楽部」を発足し、公園管理者や様々な組織と関係しながら協働で取り組んでいくものである。体制づくりのプロセスとしては、企画・立案から実施・運営までの各段階を通して、舞子公園の管理運営協議会やイベントの実行委員会に参加している委員など様々な個人・組織に参加、協力してもらうことで、舞子公園の夜の景観の魅力を感じてもらい、夜の景観を活かしたイベント企画の楽しさを共有する機会を設けた。その後、各組織に呼びかけを行い、本団体の指針に 15 名の賛同を得ることができ、ボランティア団体「舞子あかり倶楽部」の立ち上げに繋がった。メンバーは、斬新な企画や比較的自由な行動が期待できる「学生」が中心で、近隣の 4 大学と 1 高校から参加している。またオブザーバーとして公園に関する知識や地域との連携が期待できる「公園管理者」、地域性のあるイベント企画を期待できる「公園利用者の有志」、専門的知識に期待できる「研究者」といった個人や組織が協力関係にある。

(2) 「舞子あかり倶楽部」による自主事業の開催

本団体の立ち上げ後、神戸市垂水区の「垂水魅力アップ



図-9 舞子あかり倶楽部による自主事業の開催

助成」に舞子あかり倶楽部の活動内容が認められ助成が決定したのち、会議を重ね自主事業「舞子公園クリスマス☆イルミネーション」を開催した。近隣の小学生に舞子公園のクロマツに装飾してもらおうプログラムや、釣り人の協力を得てリリース魚や海藻を水槽に入れライトアップした「海のクリスマス」など、利用者参加型の新たな夜景づくりにも取り組んだ。

また舞子公園の夜の景観の魅力と「舞子あかり倶楽部」の活動を広く知ってもらうため、ヒアリング調査から得た、公園利用者の個性あふれる夜景の楽しみ方と活動内容をパンフレットにまとめ配布した。

5. プログラムの実施結果

これまで取り組んだそれぞれのプログラムの参加者数は、野外カフェが3日間で250人、野外コンサートが約150人であった。

また参加者の意見として、野外カフェの参加者からは「夜景を眺めながらお茶ができるこのカフェを日常的に継続してほしい」といった継続性を求める意見、アーティストとして野外コンサートに出演した公園利用者からは「最高のロケーション」といった夜の景観の魅力を活かすことに対する評価の意見、光る素材を身につけたウォーキングでは「安全のためにいつも子どもに蛍光色のジャンパーを着させているので、この光る靴ひもはいいですね」といった自身の安全性向上ツールとしての前向きな意見、などを得ることができた。またクリスマスイルミネーションの参加者の「普段夜は来ないけどイルミネーションを見に夜に来てみた。綺麗だね」といった意見から、舞子あかり倶楽部の活動は夜間の利用促進に貢献できたと考える。

また学生が中心となった「舞子あかり倶楽部」の存在意義に関しては、新たな公園管理者のパートナー団体として、ややもすると中高年が中心となりがちな公園ボランティア活動に対して、常に若者の発想力や行動力を導入できる貴重な人材バンクとしての機能を発揮することができた。これはバランスのとれた利用者層の「参画と協働」による公園運営を構築していくうえで重要である。

6. まとめ

本研究では、舞子公園の魅力向上における新たな可能性を探るべく調査を実施し、夜間利用のサービスに需要があることが判明、潜在資源として存在する「夜の景観」に着

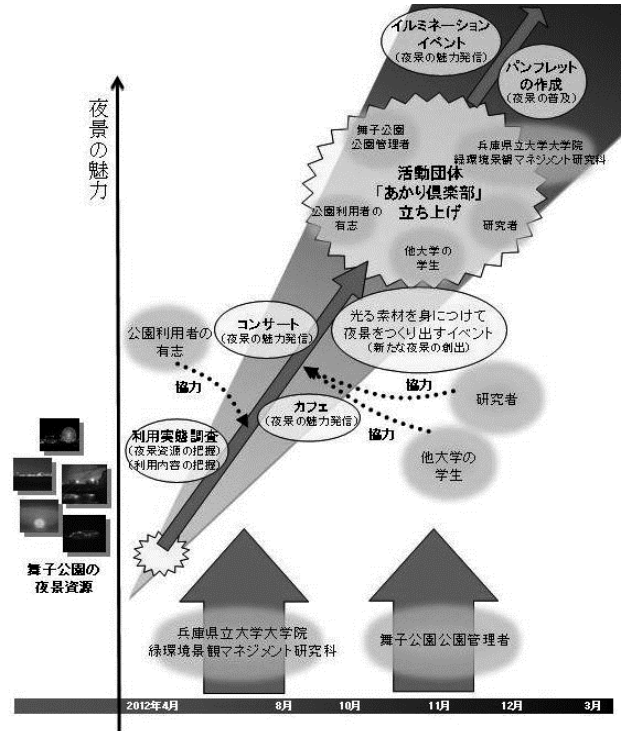


図-10 取り組みのプロセスをまとめたイメージ

目した。そして舞子公園の「夜の景観」の活用方策として、様々な組織に参加・協力してもらいながら、周辺に広がる大規模な夜景と融合する小さくかつ身近なあかりを人の手によって作り出し、これに参加者として公園利用者が集まることで「人」と「夜の景観」が繋がるきっかけを作り出した。その結果、それぞれのプログラムの参加者数や参加者の意見から、公園の魅力向上に貢献できたと考える。つまりこの取り組みは「夜の景観」をテーマに、管理運営推進協議会、学生、公園利用者等の多様な主体と、公園管理者が連携した「参画と協働」による公園の魅力向上プロジェクトである。また、これらの関係者が繋がったパートナー団体「舞子あかり倶楽部」が今後も継続的に取り組みを行っていくことで、夜景資源が多数ある夜の舞子公園が身近に楽しめる非日常的な空間として定着し、夜間利用が増えることで、さらに魅力的で安心感のある雰囲気醸成される。

このような「人」と「夜の景観」の相互作用による舞子公園の夜間利用の持続的な開発が、「舞子あかり倶楽部」の継続的な活動に併せて期待される場所である。

謝辞

本研究において、アンケートにご協力頂いた舞子公園利用者の方々、ならびにご協力頂きました全ての関係者様に感謝の意をここに示します。